

2025. 10 隠岐世界ジオパーク紀行

1)はじめに

世界ジオパーク巡りの第2弾で、北海道のアポイ岳世界ジオパーク、洞爺湖有珠山世界ジオパークに続く3カ所目となる。中国地方には、現在4カ所のジオパーク(山陰海岸、隠岐、Mine 秋吉台、萩)があるが、その内2カ所(山陰海岸、隠岐)が世界ジオパークに認定されており、今回は隠岐世界ジオパークを訪れる機会を得たので報告する。

隠岐にはこれまで仕事とプライベートで2回行ったことがあるが、いずれも25年以上前のことである。今回は旅行会社「たびまちゲート広島」が主催する「広島空港からチャーター便で行く隠岐世界ジオパークの旅」に参加することとした。旅行行程は下記の通りであり、2泊3日で隠岐4島を巡るといふかなりハードなスケジュールであるが、「隠岐ジオパーク推進機構」から専門ガイドが3日間とも同行するとのこと、絶好の機会であると考え参加することにした。

●旅行行程

- ・10/18(土) 広島空港(14:30)⇒隠岐世界ジオパーク空港(15:15)⇒隠岐自然館⇒玉若酢命神社・八百杉⇒島後(隠岐プラザホテル)泊
- ・10/19(日) 西郷港(8:30)⇒【フェリー】⇒別府港(10:05)⇒赤尾展望所⇒魔天崖⇒由良比女神社⇒【昼食】⇒波止港(13:30)⇒【国賀海岸めぐり遊覧船】⇒菱浦港(15:00)⇒隠岐神社・後鳥羽院史跡・後鳥羽院資料館⇒菱浦港(16:30)⇒【フェリー】⇒浦郷港⇒西ノ島(リゾ隠岐ロザージュ)泊
- ・10/20(月) 別府港(8:00【高速船】⇒西郷港(8:45)⇒隠岐国分寺⇒かぶら杉⇒浄土ヶ浦海岸⇒白鳥海岸⇒水若酢神社⇒【昼食】⇒西郷港周辺⇒隠岐世界ジオパーク空港(15:45)⇒広島空港(16:30)

2)隠岐世界ジオパークの概要

隠岐諸島は、島根半島の北方40～80kmに位置する大小180余りの島々からなり、主要な島は4つの有人島で島前地域に西ノ島、中ノ島、知夫里島の3島それに島後の4島である。人口は全体で約19,000人、その内約13,000人が島後に住んでいる。隠岐諸島の位置図と拡大図を図-1, 2に示す。隠岐諸島が世界ジオパークに指定されたのは2013年で、その範囲は陸域と海岸から1kmの海域を合わせた673.5 km²(陸域346.0 km²海域327.5 km²)である。指定理由としては下記の3点があげられている。

① ユニークな大地の成り立ち

日本列島は、約2500万年前に大陸から徐々に切り離され1000万年前頃までに日本海の拡大が終了し、日本列島は現在の位置に落ち着いた。その頃の隠岐諸島は海底に沈んでおり日本海の火山活動は活発に続いていた。その後、約600万年前の火山活動で島前、島後の原型が形成され、約500万年前に、島前の中心部が陥没しカルデラが形成されたとされ、島前は約80万年前島後は約40万年前に火山活動が終了した。こうして形成された隠岐諸島の基盤は日本列島で最も古い2億5000万年前に形成された隠岐片麻岩で、朝鮮半島などに存在する大陸の基盤岩と同じであり、その上に火山活動による火山岩が積み重なり島を形成しており、大陸から分離形成された日本列島のミニモデルといえる。



図-1 隠岐諸島位置図

キーワード: 隠岐片麻岩、流紋岩、粗面岩、玄武岩、カルデラなど